

堵士勿彌玖伶

共九冊

家乃物事の土下

奈

十二十三

特別
~4
8179
6

9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

中
頁
14
8179
6

澹泊生澹不惹塵跡高行老語驚人
今逢河氏借吟榻富士山前要見春

和お顔

富士乃根の音んむき記又きよそん人の云ふ此苑の初春
十五日にやと出とく玉川を海り又しまにたり
松出でて強波ははく并海先生れ鶴又入伴夏の
三鴻のゆふものして十九日池田へりり富
妻又を人乃用指成とひすして侍し例の獨
麟和尚と客ふ事し物とけ禪師とあつて松鴻
此より不位はひし云々等へ乃みとくふこま
やふ徳あすしう候ふ此詩あり
送無心道人遊富士松鴻

醉竹柱

形影相憐道海濱此行令不耐馳神芙蓉
白雪松洲浪到處迎君我故人

和お顔

君も我もあかりとめれはを記あつたにむし猿人
無心道人為有東奥行宿余山房兩夜

桐江富逸

霜曉空益明飄然萬里行寒林分手處
啼鳥兩三聲

和お顔

あまそ八のうささめぬ守ひ衣を吹しほる本柘此勢
因廿一日又逢あ何うしれとて之り侍りし月日の
ゆちめくしあつしあつしけし後成るをくけ
比を敬なりをまの由とてしうしつゝ病乃をり

竹うぐをさるもわりのも念成さしなふ人故をさ
にされは家おる旅所けりを此方よりさきたも
むきなる人のいとあつらるくはれはうもとりと
ふあつたにさししとあひそのあつらひえと思ひ
立ぬへしと何くまさとあつたまのさつ云系
後うされををのうう日救うさぬりくま月二日
己の時女竹葉ふのりあ湯うとのをこけり高溪
のりくさびさる梨葛葉の星をさ地八情柏
亭又宿し又此日ゆく程さる神應寺小
草鞋をぬく

孤雲歌送無心道人東遊

神應古谿

孤雲々々兮出岫而飛朝西暮東兮飄飄何
依芙蓉之高兮繁乎天機滄海之廣兮
雷謂乎落暉送尔千里兮延佇翠微孤雲々々
兮吁早晚歸

和お顔

契りて中々さるのハ云乃の来を記張の之はさ
日月涼をれ内と母宿又日六日思海知是度り
夜はさるの侍りに

僧正守詮

ちさり重く来とび張のえむう朝日のくやさるん
う魚し
通て下れ契りて安る朝日朝乃定ちとびさうかとも

法嚴

武義野や弟の松をむとふとも着ふかして家より

う魚——
をさむこり末にけき弟松着をむとつて家や松をん
七日似雲法師のこちれくのうに寝たりけんふさく

松海やまの云れをうれつめて都の法をうらやもえをなん
恒樹

返——
初りくすちきけを雲海乃波のりくはも家つとこちん

似雲師乃返——けきと母
孤雲
家つと母を云れ葉もをう所は松海乃ま川をうれ

う魚——
海の名乃ま川の云れま川とともえらうひれくまやうん

返——返つてくま

恒樹

ういゆむ波のうめはつととも海の名をうらふとれ忘れを

又いう魚——

うそれれ海の名をうらふ云れ葉ま川とつて——人の誓りハ
別玉の鏡の雲をうらふ人の許へ

うくひよ忘れんものうする雲の色もぬらん人の誓いハ

元成

海りむ松海をうらふと雲らふく海川の名をうたうそ

う魚——

うれてもまうらん雲海やあふ海河の名を誓りりく

かきそ都乃うち母は年比むつ海き人くこのあま
あまよりきれたまうこういふとひまうてほくとも

りかあ紗城村——して十六日母系城立出家とあ

都母を認ふあえ——塔の海をうらふゆらん及ふくとも

まはれくやえぬ面影とあひまふふりふまふりくく著
あつ河をりくたそ

又古き渡りをあぬる白川に水とひき実跡をそふ
あつやうこれあつりりく

娘衣阿字風さむあつ山阿さあきや音余あん
魚坂乃園城こあつとそ

くくおきおぬの長流のり又お坂をりつうまふん
そあれつるれを都たりりりしそあれしそあつさふ

あつあつ何とあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

へん

まはれくやえぬ面影とあひまふふりふまふりくく著

あつ河をりくたそ

又古き渡りをあぬる白川に水とひき実跡をそふ

あつやうこれあつりりく

娘衣阿字風さむあつ山阿さあきや音余あん

魚坂乃園城こあつとそ

くくおきおぬの長流のり又お坂をりつうまふん

そあれつるれを都たりりりしそあれしそあつさふ

あつあつ何とあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

燦たる夜堂より照るる燈籠ちう紙竹の枝も不のほふ
これ法にちい法にちうなりをさう妙智かり
て母をうせ給ふるめを難あるこの遊りに

さえふり大意大悲のちう思存もあやまきあふ大火を
十八日洗城出くゆをいを風えう

派生こりきふれ補とも百年乃うさうりちわ茶葉はあそく
あつこしふ雨を茶辰あ反れ海の家かふ覚をい
けおあしふと涼しを志れれとこ海ちん
あつれおをむやゆきれ猿人よまをめあ終
た今あひひ出て客ふ真一まうひさ

伊ハ梅中なる川よのこころてんやあもある管ふ
同表泉村泉福寺小端をもむ十九日おはりて
不うををくに神川くゆふをともむうくれめ

あをりさ記もあて人乃ゆをいれを薦僧ふそ有
き天あ城いぬ記ととて上にはい表初を三つ
えさしとせりをひつきていつくをともむきあふると
いふなれと京教の明暗寺たり末も勢州番
寺へ使傳しはるる者たり名をを約しと仙露
といふとそ名あしおを法るの菓こりりさそと
まうとん一曲きう海介くたひひ一わとさも
ち法多ふいとえ打出さりし鈴麻心さま之鈴麻心
此をさるる少々鈴麻河形もなりぬ影との思る
同書つうと園ふつく古日廿二日はの墨つくれをい
えい古三日夜お可了縁福を廿又日申れ時と
治ふこぬる廿六日湯社り中うて
瑞植城魚さそとたにおむとちれる海と八神をうけるん

同七ツ時をうた田丸乃とと小村亭へお可きなり乃
舟をうけけりしにあきし世ちに神代をうとく一
夜二夜いかにいしとありしうはとれんうと
うひく明色ハ廿七日若れちる成んきめ

加尻より海やとも好くを晴く由丸の里小若いき海と
九八日相可海興井丁着地と延茂許とて由田庄

里時兩由庄

いく方う山田の里小志とねそ秋の梢ふう心むしる雲
稲荷淨社身納十首此町是段地と若也と就進
初秋風

いさう山秋のむしる云すうとてゆふとそとを林の初風
廿九日真井家りくく人くくうれ錢子

右書

校く乃らめをいん松崎也とやゆりて家つた世世
空ありしを末乃此字をむふりてむくひと
りし

宗仙

海の人神代つとつまやゆ末を記人の云れ葉

返し

松崎也ゆ末をくうもそいほうあふ此里小うとん

長由

猿衣之うりきくすう海や波のうあのおとくえん

返し

春海やあぬらあゆりてもあこのとれんひやるうん
松崎也あつり城とつう地と延茂許とり
ゆんやなもし形と春海とつ成とる人の云の葉

八日午のおはるゝもつねを三々

漕船よ正に舟中びなる世れをむうしに如く舟にのりて波
同為善小官り若九日宿多り業也乃人をま
ぬく契田乃御社乃法施し牙於河とくに

冬にそぬはく神の風さむとあつた此宮を人たのためある
去風夜をの里よびつぎの濱名城つむいとやさし
同己の別道より鳴海の驛下ニミサトの許母とひをり侍りし
ふいぢるし一の書此由りてもく六七日あつりさ
少くふとそ人あゆむはとひ佛事なるといわれむを
ちひいと名なり

鳴海写素形し子名鳴勢もさそ所のふとと神ぬく正に
あはれあはれをぬはよ出ましく屋をたの宿すくをも
むきかんとしひるせしちしは皆えきるははは海も

日又人ほるまびぬきそ乃乃人を追掛はそり相成
うはむむとせしるましくやあつり世捨人乃才なる
阿やうきいのそを結らん事あうきりしちあはれを
あしし時

打をそれに物状誘ふとも不審はのしとつちりち神は
十二日矢をたれ乃里城出る時人くあはれをわしきく
ちちのくれえさりかめはにまをり結とひはり
をれし

梓弓矢をたれ乃里に急居し七人あはれをすくゆりた舞
二村ふりり

かろみき二村ふりり
十三日赤坂の環亭をたるとま二川猿あつる場あつ
はるびをたれ湖見坂ふのちりてちるむまをくはふ

初と初ひあゆみの言根は之にされたり
西湖をさぐり暗の中は模索を一人もあはれしを
まして見れば半とせたりや
此深き城よりとく不ゆるその面影い
まもさう母ゆきれし中く奥をたふし
浮雲をさぐる志と昔見し面影よりぬ富士は白雪
さうし山は松尾をさう

むろし今宵ふきの名も高師山松吹舟の初き
溪谷のたりし今も松く
まの思ひを海にゆきしゆきの橋の記をさる
同日申此刻をりし不ゆるおあそ宿に折し
六十あやりのねる東髪乃翁猿婆やはま
らしめきてるをれしといふる人そしといひゆり

よ歌を二人をさうししてまきさうさるもの
と実面白き境界の喜とさうに
ゆきむらうししとさうあはれ笛竹乃翁
ゆきまけし世より喜ふさうそめ世を
さうしととおもはれし尾羽乃大守
逝去あるをさうしし刻し
一曲と吹事さうしとさう海をみき
まもりしをさうしと稜のまをひまは
きものびえしをさうしとさうさめ
なんさそいひひまいつくさう
まもりしをさうしと
うしれ者三十六人さうしと
度下の没人の子とさうしと

感をばうらたに北清家へ心づかるえりありて
いと多しぬちりて家付もと筑前府の者なり
しうらうらうら時醫術精乃乃とめ京都小こ
しびまゝし以蹴踏此のこ能多并家北清つ身
とる孝乃乃とめ早家へを清榮北清乃折
しとるににをせられつはめくこにありし
今おしひ出まはすことには友のつれをまねそのこは
伊勢田玄陰今の名を慕業と申なりなり
ともりありしひてもたをめしぬき事なりをれ
いさくしうらなんとて宿乃あるしに夜のまれを
ひをまねははまのうら衣ともつて色うら
よせやうのもれつうつれを先をきく紙おらふ
らきしこの志はなげそのうらもちおらふり麻も

そのこあつものふりむし清を教く破去も靡も
悔もにに内外乃魚その河まてもを記ふこ中し
折しもむしひく時ぬめきく風吹くすくき
こびぬぬまハかこく名神もぬまはほうはくその
ゆむさいじんうらぬし
いづれ本陰は宿と捨まにうらちあるしこの旅の枕を
十日日この時ふ舟はちるなり
あゝおとさふしうらぬれ追風は波をうらぬる船の魚ひち
同時なるしを記むむしひの界は名舞板城は記左
乃うらうらやそくおうくこゆらひちるさやそに記
月をむしと舞やふさそくは毎のいれふあぬさるを記
ゆくく候松のさと教真寺は訪く名ぬ
候松の里は名さる波の名は板城はる記しなりなり

境やぬいし便松のちふ社くきくも所に行世法の教く

早梅乃枝不花多く

春栖

色も勇も志る人活えく梅苑去れあるるにせや咲む

の魚

うきつをもちしれん云れ葉の久らそ人ぬる梅のせと枝
十五日折く小西海十六日をふと暮し時いもとけ
乃西光寺より葉着れ使借あり世人乃えさ
道志えにともちひゆきぬ詠あり先をえりし
柳瀬氏のせうそふに地のかえりふを替りぬ
ふま立より終ふとありし奥より
之海をふいりとうま川流やあはうとるけき膝をえとる

返

鴻の名れすわらうら溪松乃陰のとりき人乃云れ葉

あむすの葉登りて

人毎もももやを記しあむ餅とあむ便の葉やとくま
天流乃りし舟少く西の上人のち中るとさひ
出く

うらもさこれしんも世川乃なぬきゆらぬのさう
末の時を記りえ対西光寺より入い寺の骨子智葉
あむい結ぶ教國もよりみきさうりぬまに陰を記
くあつ流くくしてるぢり

青れるは月然らむ乃飯枕かけしそを毎ふたりぬる
十八日掛川まやうりしにいよもさう風をけりく
吹きあむあむさひし十九日れ朝そのをりた
志りふとされてはまふ小夜の中山ふ成をれし
命るりありやありしゆも此のうふおひ

うきーはうーはうーはうーはうー

老白龍一乃高根をさうけて公も不承不承此語うり
同日未乃時交うに中居玄房醫家不承とく月
二流乃長遠乃はうれ哉やそめ侍りぬ因井田自
此語一此業ゆめと三流此明神母ゆつ石炭
玉うきい一此華表より入海もるふ村うき
奉禮も湯本社お殿をけしめ末社とらうく
みして雲塔横門高くとひえくると二王門乃
ふまは池初うくくくくくくくくくくへ石橋
わくをりかくてして高木枝をうく杜木ふく
ゆりくくくくくくくくくくくくくくくく
何くくふぬいめして富士見忠亭ふくまぬこれ
ある一より朝字夕々氣夜のあすを惠て候ふ

廿八日此夜老ふくはもつそ又のあし

あしお庭も梅もほれくくく此高根はくを白鳥
猿乃日殺もほりぬ色ハくくくくくく

む月の二日都の方へ舟はうたつわそふその初出

えんえりいんえ一ツのこくおほるくその中り
うんくく山水をこのめつるれくせんけくやめ
うくく一え日のうく此高根はくを白鳥
わうくく年比くくくくくくくくくくくく
くくくくくく并に先生を風流のを儒雅く
伊豆れくく一梅又富士見の亭やそく屋室をえん
つくくをうれふそこふまうくくかめ不いけく
こけ初ると方おれとおもいりきくくくくく
也れお堂より阿くを神を月十日阿より不活西

脱織の葉を抜出くをさうへつる身の杖り
毎をけらねくはるやまつあけうにやまら
心の弁り日救うるけりく年れをりりよ
と名けりぬ

くねの年もおれをさうへつる身初妻乃富士をえん
すーしをりえんはさうりて公有るる位指子秋恋
すーのさ名成ゆめははとの曙ふくれしを
妻成むえの

妻にあふ所れをひ出ハ富士の根や若らりあむむ定のおまか
不二の根の若ふえうに之新玉のをりを四方に妻やしん
富士乃根もさうり妻と白若れしははあむ曙のえ
え日ふいさうくをさうへつる身初妻のえ
契りしをたひひ出さぬ

妻よえん三つれ富士の面影を都おも合初おれひ出
とるさふさ海りても初先ハた成をさうる花の初り
四日乃表る風をさうりて夜まるる初むり
い世成さうり初ひしあち初とむつしをさうり
おうしひし一時の葉村の葉をえんしをさ
えあふとさうり若ふさめぬんおとけり乃初
うねしをさうりしをさうへつる身初妻
葉れ初しをさうり

なれおもえんや若ふえんはん子初おれ乃の親のま
初海うさうしも毎ち初葉の初れ若ふえん
七日の初神の初神の初おとけりしに若のおり
はさうりえんしをさうりしをさうへつる身初妻
さうりしをさうりしをさうへつる身初妻のえん

海母のわいふ山樸ありし世をたぬくも若手まらに
不二の根をくもくも地箱根山はくはく吹お海
を母もくもまらたをたぬくを母もくもまらり
も大ききるるけくもくもくもくもくもくもくも
うちむくもくもくもくもくもくもくもくもくも
ゆひもくもくもくもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
葉りくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
一ツの経天の八宗祇法師乃自念自観の送像
をおくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

ふたはくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
影の讚り

世もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

うーもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

世もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

繪姿もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

らばくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

ちばくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

一ツの経冊より八椀園の墓よりゆつてまうりくもくもくもく

一とくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

古墳や面影はくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

は経冊乃くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

とはくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

やり捨毎くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

十四日當れ晴林けく野當といふもくもくもくもくもくもくもく

松光燈籠の美糸のくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

けるやうくおまゝに繫ふらうらほくさのめいりか
山崎北條也きりさねを四置をうりのけりごと
りひらきりしりし波をせ之がさ川うこれおり
海さ山のう形をせまれば毎はまお入江のく海くあ
らうりえりてけく小田原も忘らんぬ

三日鴨立浜りく

人便く長もあされ浜り小鴨はまをむうをそふ

二ゆきこれ残はるが

おとやふり人あこと二ゆきこれいそぬ旅もいそく月さ
日日夜はよやると四日の朝は宿はくち遊り幸に
海さてあうういそおのりまに江乃しまをそ
ふふこれと濱も打出くふらそと六お七は濱
く海さきやうり所いこいむと渚はまを

きよのいふもさうなりあこのむさひばきんむも
まらうらうらうたりて旅人乃あまうまのけりひ
うし海さり海をうらそく打うらうたをそふ
またりてうし海をすこのあうらうり入ふ
形さかえ敷をうし肩ふ海さうりし人乃あ御
をあまうらうらうてはとあうらうらうらう
まのいそぬ祈なれとるあもらうらうらう
このともちり坂戸のいそ海り馬もく海城り
しこのもあまかき人乃くひふれりそ人あ海
をいそらうらうらうらうらうらうらうらう
見ゆる海の志はたわらう中たにわらうらう海さ
うりれ今とひいつま麻路英女乃御は頼み
韓信君史の中うらうらうらうそのりさ

涉當代は高家母を―ある所のしをさけ給ふを
れなきをれなくう。梅―あまきあまきひたう
ううひをるに何となく公行又徹感降るる
十一日又江戸城へ地を十五日白川又名は宮と云く
はくちの城のそと黒うの山城なる名を回風を布り
をさししうう弱乃の所をといふ城をさししううや
をさしはさされ布しすて泥濘小ふささぬたあま
るこし城之流はをみす流ひをむとささるはこくく口丸
おのこにをきあをけられく安ん流る上乃あやう
さいをむうこれ―さるとそかちりりゆけ八竹末
北枝をきりりくころふ梅―へ人馬の阿―あまま
にせりそれなりくころの蹄りりくき―氷↓氷
そひてめてさ横さすにせ―ほるたのさびふむふ

似うよりかかふうき、猿なうう。今宵を月名光あ
ひてまをにさるゝあふ星れうり枕折ゝあひうり
月名乃也と國語の名多ありくんととゆる白河の星
白川や名に―とゆる云乃葉りうはとの裡も秋風を吹
け星とわれゝ凡二十回阿まりくとんく―をささ
せふ川あり白川ともあふく戸川ともさうりくゝまふ
人ありあふくゝうのりとあふく一河二名ある世う。白
河の星とゆるはふ白川せしひぬう。河成く飯川の
ひとあなれのこれうなまはさもさうふるまこと
りうを記し―せありとせ
十七日郡山よりやうりをもとる。世雨は家なく遊ひやう乃
このありく猿人をもてませとあを法師とくうり
本のさししともありひあふたなさけちるうあふりな

が―素をねく―戸さう―とくぬく―とくきけと男
女お悔しとり酒宴遊奥盃盤狼藉ぬらけた
ひね口乃置れやさ―さと―とらりてせうひ又お
りふ抜きけとをこさ何とあとうむむべいともの不
きさくうたことのもちり木の端やたりのおひ
わうちこそ涼ぶくまの朽木をれう海の花乃初
なりよのをとつと人志れとあふも―とてそ
ぬえらちるや人母はくをれ松―ととと
人もあなる―ととといふおしひえ―いと
う―ととと―とと―とと―とと―とと―とと
ぬいなど―とと―とと―とと―とと―とと
か地よととと―とと―とと―とと―とと
しり又十三はき―とと―とと―とと―とと

うり素季ぬちま地古調をう―とと―とと―とと
と涙をと―とと―とと―とと―とと―とと
く感慨とくれう―とと―とと―とと―とと
の―とと―とと―とと―とと―とと
妻さむと涙のぬま―とと―とと―とと―とと
又―とと―とと―とと―とと―とと
云の葉れと―とと―とと―とと―とと
この―とと―とと―とと―とと―とと
園三十三和又ん―とと―とと―とと―とと
うつとと茶店よ―とと―とと―とと―とと
なるむととあり―とと―とと―とと―とと
を我在つ―とと―とと―とと―とと
たさう―とと―とと―とと―とと

と云うすし。里人のこころは。もと。やと
り。里のうら。海右のうら。あふ。川。わら
なれ。し。き。え。うら。あ。八。町。目
乃。む。ま。や。ち。越。す。も。む。り。た。西。の。う。み
あ。ま。う。め。け。高。く。む。ゆ。れ。ち。い。だ。家。士
乃。山。を。げ。心。の。む。ね。と。お。介。き。こ。う。み。つ。た。め
ん。屋。ぐ。め。ぐ。君。い。し。う。う。き。深。ち。り。き
福。清。の。里。を。り。ま。た。の。う。み。あ。ふ。ま。ち。う。し
分。り。て。し。う。も。あ。ふ。の。う。の。お。く。あ。き。れ
う。を。さ。る。し。七。八。町。を。り。大。路。を。ゆ。き。い。ら
へ。し。し。右。の。う。ら。二。七。町。も。あ。り
阿。氏。隈。川。を。舟。り。り。又。十。四。町。あ。り
て。よ。ま。山。の。ぬ。の。の。れ。ち。り。ち。り

乃。觀。者。と。て。一。字。の。名。を。嘗。は。未。申。む。之。り。世。あ。み
也。石。の。り。長。一。丈。餘。を。八。丈。餘。高。さ。二。丈。も。や。あ。か
む。柵。を。ま。り。し。り。前。あ。り。の。名。を。考。へ。た。る。と
隆。興。佐。夫。郡。毛。知。須。利。石。之。縁。九。年。夏。五。月。日。
福。清。大。守。紀。正。虎。表。之。う。め。ぐ

む。を。昔。の。衣。は。る。み。を。れ。つ。今。も。甘。う。を。あ。ふ。り
こ。も。大。河。の。ぬ。の。を。さ。ま。か。し。は。ね。く。ば。ね。き
と。り。和。し。し。白。石。川。と。あ。ふ。ま。河。と。落。合。つ
り。ろ。り。て。あ。く。ま。し。し。あ。ふ。れ。れ。く
海。入。し。ぬ。人。白。川。を。出。く。阿。氏。隈。川。を。り。り
し。を。く。ち。り。し。は

白河の園。あ。り。より。美。海。を。あ。ふ。ま。川。の。あ。の。り。は。未
世。同。あ。て。の。大。本。元。し。は。ね。の。腰。け。ね。及。の

ひよりぬる廿一日。本の下。國分寺。本堂ハ藥師如来。
け境内梅本坊。是。この比。藤のほくれの。ものう
さに日並。ぬ。ぬ。あ。さ。う。り。ま。れ。た。ん。き。こ。こ。こ
ともを。あ。ま。し。こ。う。ん。り。ら。つ。こ。こ。み。ひ。り。て。あ。ひ
う。せ。い。を。く。も。あ。ま。り。る。う。れ。い。と。う。う。ら。ほ。さ。う。か
り。ぬ。あ。ま。ぶ。り。を。う。ん。ご。つ。ま。と。帝。都。は。何。う
も。あ。く。す。思。な。う。あ。ふ。き。て。と。あ。く。ひ。あ。ふ。と。ふ。へ
し。され。と。氏。威。だ。い。く。お。さ。め。だ。い。さ。り。せ。ら。を。は
必。の。と。そ。す。て。こ。う。く。ゆ。き。こ。も。や。さ。く。こ。ら。む。や。ハ。乞
又。あ。こ。う。き。こ。こ。に。る。舞。

寺は。ま。る。せ。ら。こ。の。れ。ま。す。ま。も。性。来。と。や。だ。い。君。う。あ。り
廿二日。又。城。地。び。ん。く

去。に。き。そ。也。ち。だ。秋。の。古。枝。を。も。秋。の。こ。こ。と。又。城。の。こ。り

日日。活。の。乾。峯。百。拙。和。尚。の。書。翰。を。大。年。寺。に。持
来。し。是。天。和。尚。り。弱。し。る。み。や。し。う。路
つ。り。し。し。母。め。つ。う。み。た。ら。う。打。か。ら
ひ。と。そ。れ。し。始。ハ。を。の。つ。う。日。教。屋。と。古。八。日。又
松。清。瑞。巖。寺。み。を。し。む。ん。と。和。尚。と。使。信。二。人
と。ら。れ。し。う。い。あ。き。ん。く。と。は。ひ。末。の。松。山。を。こ
ゆ。と。そ。

あ。う。老。ね。る。身。又。人。る。に。を。ん。て。こ。ゆ。末。末。松。山
ゆ。き。く。て。和。の。人。み。は。か。の。い。し。う。あ。び。あ。れ。と。も。あ
と。は。き。だ。教。し。と。あ。れ。る。もの。れ。し。さ。う。う。つ。と
し。ひ。や。う。を。お。り。ひ。ほ。き。て。大。き。ぬ。る。石。字。の。う。れ
あ。る。い。た。れ。う。と。こ。ひ。を。禮。と。あ。て。し。ま。あ。さ。う。う。ん
べ。い。と。そ。ち。う。く。を。し。へ。り。教。

不ふハハエエセセーーららりりききああててとと名なよよここそそああててれれつつ不ふのの影かげ

右支首犯奇りや詠諧也

塩竈乃明神しほがたのあきかみままままううててくくりりととーー不ふらら由ゆ成ぢ見見
志しほほうう海うみののくくくく母ははここももつつるるををここくくままちちううれれ羅らうう海うみ
ををよよれれーーりりまま帆ふね川がは舟ふねまま風かぜままととひひああままををちち
ここちちのの海うみくくままままははとと舟ふね人ひとここままははううーーらら
ささままよよいいひひささーーををーーふふままももななくく三さん里りををらら
りりをを志しへへーーふふををししまま松まつーー海うみ母ははははままままぬぬ世よ間ま乃なり
風かぜ京きやうううららままんんととままれれとと半はんふふりりあありりふふををむむとと
ままままははははおおととららをを含くわめめりりああまま川がは海うみややおおーー
海うみとといいひひくくややままぬぬへへーーままんんままかかままににななままああわわくく
ままれれ月つきややををーー海うみのの底そこううららまま清きよのの松まつ山やまををととうう
ちちすすーーつつ瑞みづ叢そう寺じりりままままううててりりゆゆりりぬぬ世よ寺じ

乃を禪師のをぜんしををととーーめめ天てん麟りん院いん圓えん通とう院いん乃なり院いん之ののの
不ふらら緇し素そ乃なり志しくくーー日ひ小こううひひてていい川がはーーああままをを
ううああままりりびびままくくーーままぬぬままららううみみおおりりひひつつぬぬれれとと
梅うめうう浦うら北きた梅うめををええををめめーーりり様やう曇どんののささららうう月つきええ海うみ
のの月つきととーー不ふのの煙えん簪さんののつつりり火ひををううままののあありりててハハ
ままままううひひををここのの形かたち海うみふふりりててハハ後ご葉えつつままかかとと世よ
不ふととのの懸けん山さん既すで水みづ雅みやび真まことささままくくにに行いくくままををおおくくまま
むむととももううままままととひひぬぬ魚いしーー時ときよよつつままここううららままははをを
つつくく人ひとくく乃なり唐たう飲いん大だい和わ奇きままらられれううたたれれととここうう
のの二に首くび崇たかははくくううささりりままりり勝かち京きやうううののそそめめハハ地ぢのの
あありりすすををささるるあありりとといいひひーーままままささるるゆゆののふふをを登のぼ
とと海うみううーーののふふささららううももちちううのの葉はれれささるるままととふふとと入い
海うみききりりののふふれれははららももいいんんあありりううーーここううくくままるる

うもろあをを禪師をもり金取へ出さすつらむ
は清少くはまきこひしををうたふかゆしと
まじしつらふあひまき波のもくつをやかと
なもくつらふとくそのつらふとくさりり
みはつふ逃きあつらへつらゆりてんとかりそあ
にあとつけく

灌佛の目己乃村をうりに天麟院を出く志ほら
はの慈雲院まより苗谷の向泉寺まゆち
り乃ま久まゆりつらゆりつらゆりつらゆり
ゆきま

つらふつらふつらふの夕き程もつらふつらふ乃玉川
なげゆきめつらつらつらつらつらつらつらつら
ありそのまゆりつらつらつらつらつらつらつら

よるはあつらつらつらつらつらつらつらつらつら
と今八田畠村路とがつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
市村まきりれつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
寺又乃秋も倒の本末下の寺ま宿と十一日は坊
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

まのつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

うづれて世はあやしくみ名は河名あやしくし、
まじりぬとゆふ不し、西のうらふ九所あまの由はく志
不で村の山北林藤又、實方中おの法墓あり、これ墳を
西のうら人の山家集のうらふ、
りよりきむに、
のうらふ人みとひなれと中おのつうと中ハ
見うとちりると中おのつうと中ハ
又とひりれた、
いと悲しうとちりると中おのつうと中ハ
えをばり、
後よりうらむとちりると中おのつうと中ハ
く地もせぬと名をうらむとちりると中おのつうと中ハ
なま、
なま、

あまぬへー墓の前まぬつぎぬう。

詠としてうの名をうらむとちりると中おのつうと中ハ
世よりきむに、
うさし海の神のうらむとちりると中おのつうと中ハ
まうー南へゆきてかさし海乃道祖神(まうて二里
まうらふとちりると中おのつうと中ハ
戸乃雲はんは。

武隈乃二木の松もまぬつぎぬうとちりると中おのつうと中ハ
世よりきむに、

十二日、
原をこふとちりると中おのつうと中ハ
う、
は人あり、

こそうまゆをせくはめねあまうちよ家乃借す
をもてしたすといくを打すしこもりその
あまふばいとるなをせしめれりまてしあつうまの
とらばらうらるふ流中の甚まうりま
りい海濱にすたそのさ便用雅而く名利
のきつれよはまうまてつて日毎大和奇城ま
るるうとあ差の跡もはるまうす海に市中
北大隈ともひれすしいあま十日をうりこめら
まもるゑるとろくわしひをれとい人乃アま
れく塵うゆき胸の中もまりて清まるん地
をすまざるおしとい家のむうひねる小家り曉
より念佛ころくこくひ或時はわくうらな
ぬおさねきこくといひくをぬいれまひうらつ

花のゆりつと打えきく時をわくひのやうまをれ
とますうまもおもむねをせおうくくうしと
るふしこそ今やこれ飲ちうらあまうりもり
せいちうすあまこころのうまえといれぬ昔は
こありく髪を敷くよのすひ阿乃よむと成
あつれときあまうりまねを毛ぬとにあつれと
はあまうりまうらりのうらとこひきつてま
あつれこれらあのおの男あつれあ人えつ下のホ
んちりしその美人楽人とはいふとといひれを志
くい乃ときまうつうらまを彼楽人といひらり
えいれらるちれあつて登りあ人し路のやうり
るなりてらある福うといひうらむしろめく
おびまうしはく庭びううちてされうらいろり

と。し。ま。を。き。つ。る。答。び。自。在。ま。う。け。あ。り。そ。の。こ。し。
つ。に。何。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
法。つ。り。何。の。教。う。ふ。何。の。換。の。法。祿。乃。お。
な。ま。う。ま。い。ひ。ま。る。は。そ。の。祈。を。け。う。あ。つ。ま。き。く。
母。歩。く。何。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
ら。ひ。ま。い。ひ。お。し。こ。ひ。多。禮。を。ま。れ。ハ。一。字。も。の。ハ。こ。の。
ら。び。れ。何。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
空。心。の。中。も。う。ろ。ろ。と。ま。を。れ。も。苦。も。す。き。と。と。
つ。に。し。ま。ま。れ。し。そ。の。苦。の。な。ま。い。も。う。し。あ。と。好。
ぬ。れ。し。こ。し。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
し。そ。う。つ。つ。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
し。そ。し。こ。ひ。多。禮。を。ま。る。ん。の。し。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
た。あ。り。ま。う。つ。つ。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。

誰。う。見。び。さ。め。く。ら。む。あ。り。て。世。上。を。う。ん。ま。る。人。の。志。
わ。て。苦。び。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。我。の。ま。れ。あ。く。一。生。乃。
同。富。貴。の。人。も。貧。賤。の。人。も。や。う。ち。ま。る。り。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
の。し。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。あ。り。て。世。上。を。う。ん。ま。る。人。の。志。
あ。り。て。苦。び。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。我。の。ま。れ。あ。く。一。生。乃。
何。の。拙。者。は。は。い。二十。年。後。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。あ。り。て。世。上。を。う。ん。ま。る。人。の。志。
そ。の。し。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。あ。り。て。世。上。を。う。ん。ま。る。人。の。志。
あ。り。て。苦。び。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。我。の。ま。れ。あ。く。一。生。乃。
ま。り。て。世。上。を。う。ん。ま。る。人。の。志。あ。り。て。苦。び。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
し。そ。う。つ。つ。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。胸。の。痛。む。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。
何。う。く。地。獄。の。あ。り。て。世。上。を。う。ん。ま。る。人。の。志。あ。り。て。苦。び。ま。ま。れ。し。こ。の。心。ひ。ま。を。び。ま。う。け。つ。く。

むらうもれなく我んうら書をとりとめ子とすけ子
ゆまうかろしーいばんらうとよしとれらち
りのうかーいさうりよるりて毎、身のうら
をこれとひひうらひーにほくくとよふ、是程
愚癡形をとれあくしー今うら血乃海をとり
歎てとやくにすぬとれ乳あつ女ばやとん
ととも家ちうしーいさうて是もなうされといり
とよ六米の粉をのまに祉やしーてよまやうや
あふ魚ー乳とすとも人らふとのなれと
先りてと生運ちうれとるう魚しーりーそ
うてとーてあるはとれまてちうりそれと死ぬ
やう形よはりのちうら一向よ東西もとれまぬさ
ぬよとぬまは、そのなれぬともよるへー乳と

そらうもよはりのやまひりのうらは志ハー等、のひ
ぬりとも若よ若ばうそらぬ魚たれ、樂はとひとら
すとおひきりて、その時よ、れともあき、あも、時
常、なや、え、乃、す、う、せ、よ、き、と、と、と、ま、あ、く、恨、ふ、魚、う、ら
ま、阿、き、こ、そ、業、志、あ、く、ま、く、う、れ、む、へ、う、す、
と、く、今、う、り、ん、と、若、と、ら、あ、を、や、め、ん、と、思、ひ、極
め、い、り、何、事、も、ら、ぬ、く、ま、日、く、の、世、う、り、り
う、ら、ら、ば、ゆ、き、れ、人、う、ら、う、く、母
う、ら、月、を、く、ら、代、を、め、つ、う、ら、の、れ
とり、成長ー近年皆婚禮させ、それよりこ
のう、が、れ、ひ、う、ら、ま、い、し、又、書、を、む、の
へ、と、く、く、と、母、あ、く、き、う、ら、や、ぬ、後
妻、い、と、り、身、は、と、樂、ち、う、ら、と、れ、い、毎、ん

のまに近和のおさね子かして友と成りてうごひ
すを離ふたり人間をさきうめどもうひもの若
お疾しうらまへた何の乃をさきおくおや
ぬれま犯人乃やうにまねもさううと我良
ぬくことと是ハ彼うらりのもれりびきそそ
比うおき、りのめくさううハハ路くとうれ
らう心成さうう一飯きうらうさうさあんおめと
てうごひすひえりまぬもさううのまひはを
しきくせありてはばぬさううくくあねを
新うはさうやうみえまねとあれもうくいと福
は心のくおりぬ心すまうまへりまちうひとも
人をいふし和の法式をさむきあき志は
城ぬまは福は人母とうめくうめらううめぬ

之とく何ゆもぬ一人りく若ともちり樂と
もなるちりとりやき備とに一文不知のちめなう
三界唯一心外無別法のおとくありまうくお
さるあひをねしてうれ侍し十七日え花吹
びとりのぬい珊瑚寺へ系うび里中めくさうめ
て郭公の寝おきく市井郭公といふとを
悪ひ者城りすも市井なうくにやうな山をさきた
市井の大原とともちひまねハおさうぬくさそ
らへは

同日何人のあかいりく悪塚をさすまうりさるま
い宿よりさるさうおれくあふく戸川をさうり
まういぬりて市井み松二本松一本ぬを
悪塚とりりいつまも大木ぬりそのあうりみ密

院觀者雲阿ノをこり大磐石十に五たりり。而て
さば横すはまうさぬまり。そのこさ梅をのつう鬼
登のやうななりてまらう。うぬへぬけうよはと
やとくし。うりゆきぬんとんをばさう。和ある
見城の俗鬼のまらう。塚ありしひ結ふこさか
み人乃あるまにちる。へきこに。もあす。あや
しきこものなり。兼盛の鬼こもぬり。とくま
こらやまらう。はばおとの鬼。及あす。鬼之
らい。ここの世。あす。ありと。あす。あす。
歌なり。そのゆは捨送集。あす。あす。あす。
とらう。

ふも。鬼と梅。こ。黒塚。を。こ。や。鬼。も。は。は。の。こ。を。
無名。の。名。り。凡。坊。社。三。十。所。や。あり。る。ん。

古日けやとぶらうし時

え森

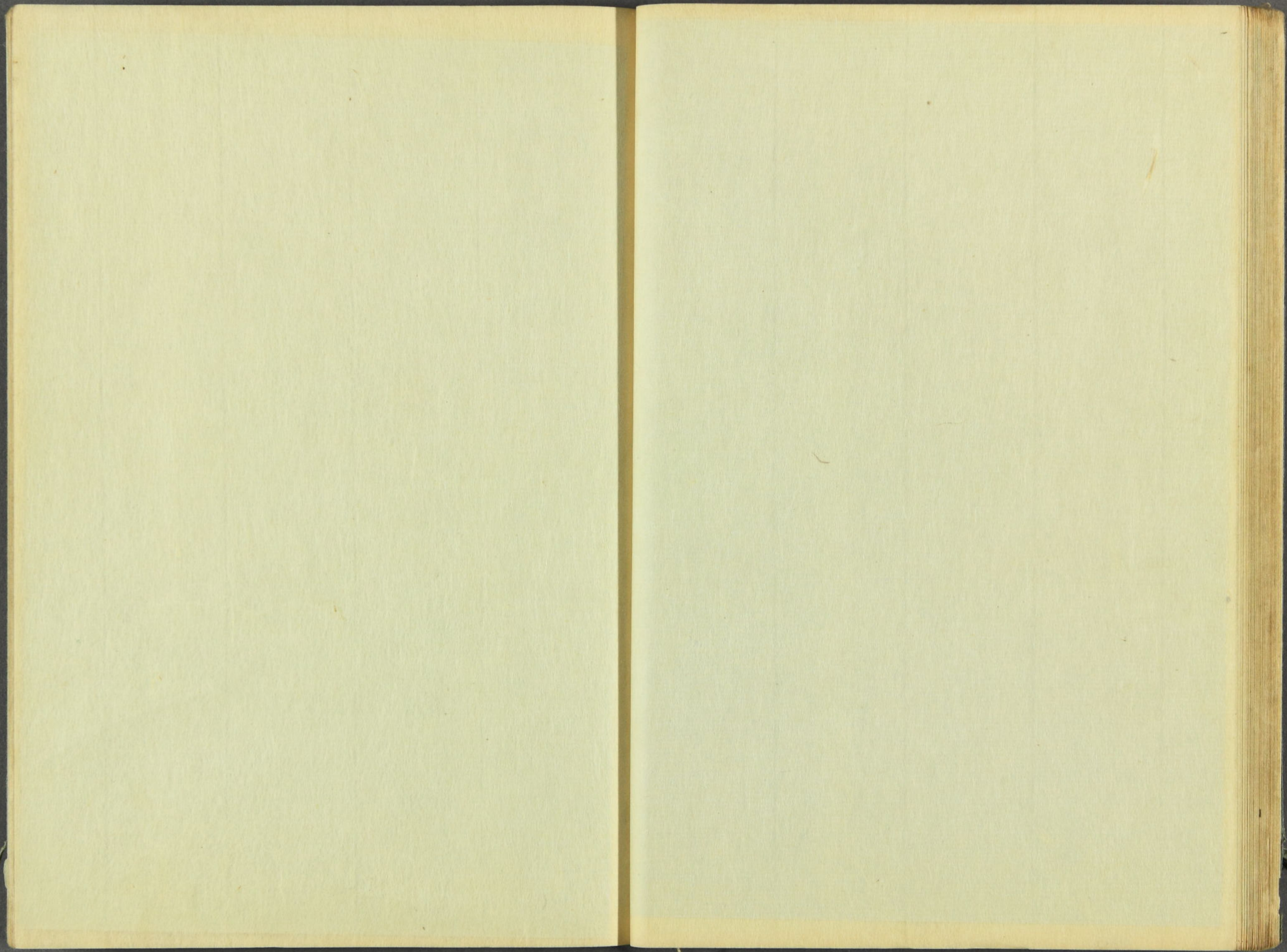
わふ。梅。の。名。然。も。た。り。り。や。こ。地。之。は。梅。び。け。て。侍。ん
え

か。こ。め。ま。ら。う。ま。ら。う。ま。ら。う。わ。れ。も。あ。ふ。く。梅。川。城。又。や。鬼
又。い。わ。り。彼。高。野。の。使。僧。し。こ。と。ぬ。ひ。し。や。ま。り。な
べ。う。け。大。あ。つ。く。今。市。城。経。く。古。三。日。日。光。山。へ。の。本
於。鳥。羽。玉。の。く。海。う。こ。山。し。葉。葉。ま。あり。し。も。う。ま
な。舞。折。し。も。湯。液。理。り。し。は。よ。さ。ん

湯。殿。へ。削。し。半。手。ひ。く。近。つ。く。み。ち。り。う。し
湯。門。の。ま。き。こ。の。あ。り。り。り。選。ね。し。梅。を。梅。り
に。金。銀。珠。玉。ひ。り。あ。ひ。て。梅。津。福。瑞。世。界。ま。地
す。ち。の。ま。ら。う。ん。う。ち。を。湯。神。は。湯。る。と。の。よ

うほくせ給ハをねくまきうてばくむておきなまふ
 その外神社佛園とくろくまきうてめくまきく九四日
 け初辰物く宇佐の文小山鞍谷城すき九六日戸
 二本板言世寺よえまきりぬ又月四日毛岩山へ
 の有りく船をまれまきり比の回祿乃難武
 家厚一き市申の家くおほく焼去まきりそ
 のありまきりめやうに目もをまきり
 今乃世にまきり此宅をれやきり時のまきり燬のまきりハ
 此寺は活西流派のやきり時茶屋よりまきりて
 口まきりひ付しをまきりつとまきり物くまきりまきり
 ひき
 七日五百羅漢まきり一め兼井まきり天神乃活社ま
 きりて梅屋まきりり卧龍梅まきり隅田川まきりり

まきり一に^{三ノキハ}けり板もてまきりまきりのまきりまきりら
 一かまきりまきり板もてまきりまきり一のまきりまきり
 母とひまきりまきりたたりかりの時乃活派ありとま
 まのありまきりまきりまきりまきりまきりまきり
 まきりまきり今まきりにまきりまきりまきりまきり
 一の流もまきりまきりまきりまきりまきり古墳をま
 ひまきりてまきりまきりまきりまきりまきりまきり
 一とまきりまきりまきりまきりまきりまきり乃柳も
 ぬき一寺乃人まきりまきりまきりまきりまきり近代山王権現
 又祝ありあり昂その社まきりまきりまきりまきりまきり
 一ひまきりまきりまきりまきりまきりまきり感慨まきり
 まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
 一ひまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり



三——かき草巻第十三

完の向け不れ 下

五月十二日江戸城出立と古五日うらら——
佐州松本母名ふ辰おとらふまは尾十四又日
にちりぬ世間とらうく洪おあくと山路くつま
て川とけり橋終く海にまよりぬ——その
つらさ半とり母そ——うて例のり——つ
さましありくはまきひ——腰おびきうひり
はあぐん

りちむむぬのきぬのふりぬは田子のらそをれ其はものうい
ほ——ぬぬの衣れ一層うもく——かさねるふりぬのそ
山川やうせる約堂うぬまてうあくとやうき漸くの思海
猿衣をもうりありのわいはうといはくもぬに——はきて

立つかりりましても是は淡洲山をさうくれさうくれのそ
美ゆり中しこは来もさう後く川崎さう五月あの日
比く海川さうそこの者かしてあふらゆきさうこれあ
世川まじさう一あえられおほくの人心さうりあさ
ゆとばえさういさうか母見さうさう母た二日さ
あまこさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうむあささうさうさうさうに我も人もあさるもさ
くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
百人さうり海の布さうりについひ今やかくさうさ
草さうりさうられさうさうの大井川さうさう下を
とれさうあさうさうは強きけられさうさうさうさ
十文字たさうさう打ちえその本れさうさう二人はさ
へての救さう人さうりさうさうさうさうさうさうさ

のせく海あさうさうさう又おくあさうさうさうさ
波乃さうあさうさう波を上げ海さうり下は海さうさ
母さうられさうさうさうさうさうさうさうさうさ
りさうりつきぬさうさう息はさうさうさうさうさ
あさうさうさうさうの中さうさうさうさうさうさ
きぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
れさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
へられさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
んさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

らうもねく。毎、むらり子あぐむらり此を母
はさく、うらにけありさまを母はきくやうそ
あうらうら一のちくま川の川北水祓や我を
とり子を之ー一あまふねくむれを今所成
なけてともよそこくつやなる(きそむいあぐ
とおよくうひー一をくこくつやのー一ちく
むれともやまさりー一とそををすく、投百人
乃娘人をもめく、打あふれりたり
川波乃あけともあしそ人を成やうー一と所をまは
世成うこつこる。蟹の志うふよりもあふ子瀬りあ
かたうれりふうきこしうぬとおひひくは和成と
ハ、海ことにあふなうとらり
海うぬい軍あしも海灘とうきせりう人やりひん

古六日松本北里をうれ乃も、堤くつまこも、
る海うもあう、河波成うちより海りく、出川村
みう、あふんまは、物をちく、一一人家の中、常り
乃かよ乃、は、は、復り今に、あう、あ、あ、あ、
測とちれ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
つく、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
ひ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
をもむけ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
根り、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
は、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
三井、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
て、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

比高性心よの布りにおしも長月十三夜ちりな
れて月よめそくお阿り。其時その院を日ごとちと
う比出されたるま。奥例へり。海より。ま。倍
濃路をとけりか。う。ゆる。ま。ま。より。福。う。し。さ
ら。と。姨。捨。山。の。月。然。と。た。ゆ。き。ま。あ。え。る。一。し。げ
と。わ。せ。れ。ま。ら。ひ。つ。て。ま。と。阿。り。し。ら。は。その。こ
路。も。ま。を。り。む。き。れ。き。ま。支。侍。し。さ。ふ。ま。より。高。性
の。僧。乃。い。と。く。拙。僧。と。も。な。ひ。あ。う。る。ま。つ。れ。ま
せ。く。ま。れ。か。お。ら。な。り。う。あ。ひ。な。く。私。あ。ひ。も
あ。う。と。う。う。こ。ら。ま。し。こ。お。く。し。あ。ひ。ま。より
ま。う。ん。と。志。き。り。に。ま。め。ら。れ。ま。れ。と。六。さ。る。乃。あ。て
日。投。ま。ひ。ぬ。れ。ま。と。ふ。ひ。く。い。ぬ。ま。つ。れ。と。も。何。れ。と
り。ひ。し。路。の。辞。ま。に。と。ま。つ。ま。く。波。館。ま。より

ま。う。り。し。に。あ。る。し。れ。ま。う。こ。ひ。ま。を。ぬ。う。う。に。空。を。り
束。奴。く。私。ま。て。ま。う。ひ。ま。わ。う。う。ま。し。に。あ。ま。し。と。ま
今。より。中。秋。乃。月。の。比。中。て。こ。も。と。に。福。を。こ。こ
む。し。し。ま。う。さ。う。し。し。の。月。を。ま。う。う。あ。あ。い
し。と。て。ま。ん。と。ま。ち。ま。う。め。ら。れ。ま。ま。月。その。心。も
ま。う。し。し。う。う。く。又。い。度。ま。ま。し。て。こ。う。う。福。と。都
より。た。り。ひ。ま。ま。ち。ち。ん。と。母。所。れ。ま。ぬ。ま。と。比。之
り。え。ま。月。ま。ま。に。ま。う。り。わ。う。し。し。と。お。り。ひ。し。ま。し
波。は。れ。ま。ち。し。し。人。を。一。日。二。日。や。ま。め。ま。れ。ま。ま。ら
ま。ま。の。こ。り。ま。う。ひ。ま。ま。九。日。百。瀬。の。萩。系。氏。を
と。ひ。あ。ま。ま。い。和。乃。名。白。河。竹。園。も。ま。れ。村。は。
ま。ま。り。ま。ま。月

白川やむと河なれぬ竹園も百瀬まらるる又月あまのころ

予比ね平し人のつよまきぬる夜もうらまきおとやみん

二一

智厚

為夜あちねふ系此一はち又措ふこのれたよりのもたれ

妻乃比親を先くそとい比又子よまをられし一人を

ゆいこまをくつて

先くまし親のちけきま子のりまを比和ちく禮やあき

返

武勝

禮の嘉を比和ちの思ひう那あもあちうくか歎り

流のまきし以放光寺乃蓮池ををんく

たふそをく白あもま葉に光は放は寺乃池水

廿五日廿秋京茂徳とこも形ひ百原比あちあ

増尾津より又姉一は眺ち比伴勢相語よ

云えの山比もくちはよりあちあ字字ん

ほりてろりあちりしはやうんあまると

ろりしはこのあよおしひあにせく

めろりきてまの海うらま富土はさうもあ所あ不の板

煮るそし家のあまのびんく

茶梅うまをまはれし宿あもむ庭あうくの床とあま

回七つ時酒訪の城下よ总宿うらめれた廿六日上

乃酒訪の神職権祝久鴻氏をり比比竹剛近

廿七とこまをれたのかり田記くあるしに始

ぬいめしこまやまれしこま何のりひあはして

それより湯社へ系詣を湯本社を成のうら

むのハセ給へ玉楼門廻廊五重の塔天龍の

井その外末社佛園のめくうあくのこくそ

おくと付し

叛訪上官七不思議

一 臨隆冬嚴寒之節湖水凝凍而後及三日三夜神從上宮濱渡御下宮濱所謂佐久郡新海明神與會湖中矣且冰厚數尺如斫開一路不凍因其神幸處豫明年卜知吉兆凶兆且古奉註進將軍家今書記之呈上郡主

元旦蛙獵

一 御手洗川自仲冬之節凍合而清瀧之流恰如鋪白布也正月朔旦有神事神人以斧鉞碎清流之堅冰蝦蟆蠢蟲兩出也是每歲不闕之奇瑞也捕之有司於神前以小弓射之號牲備于神前也

五穀筒粥

一 正月十四日於宮裏納五穀及筒於釜中煮膏粥卜知當歲五穀之登穢否也高野鹿之耳割

一 三月酉日有祭禮於前宮勤修之猪鹿頭七十有餘獻于誓其中年々必有耳割之鹿也

御作田

一 六月晦日於藤島社職掌者奏舞樂植稻苗於神田既經一月早熟稻於之八月朔日以炊之獻于神供也

葛井社清池

一 從大宮隔二十餘町號葛井社有清池其

深不可測且木葉落池不浮加旃臘
月晦日神人等入供物於器財沉波底
祭之速出現于近江國鎌田池云云

寶殿點滴

一年中日時自萱苙月寶殿檐有雷而
無歌時也

已上

享保十六辛亥年仲秋之吉 矢島宮内神正庸

諏訪宮權祝

謹誌

右、東武へ出てまうりーはーり
飯沼の上北河社より飯射山へのゆり乃乃三里
こりりゆりゆりして見えは山のふもとに
しく社頭と形くひらき種系にみもと六本

もこのまなこ生くるりそのあがりまはさきまき
うこむしうり落城さ不取中り作らうりその
因は社人こりりゆり七日の午北刻又日月星
の三光成りて河神事をとむむるとなん
其取はく本陰は幔幕をとむきまうりその中
に立ちゆくひさきこの穂まうり河乃髪は比
成ぬき毛をまらひてまらうりまをまらしてハ
をのく廉北草を志取まらうりまらうりまら
まらうりまらうりまらうりまらうりまらうり
めらうりに教百のうり落城めてはゆりまらうり
成むまらうりまらうりまらうりまらうりまら
まらうりまらうりまらうりまらうりまらうり
市多代しまらうりまらうりまらうりまらうり

きこひてすうらのやむやいそほ金乃めくりれり
やもしくをうらうらにときをねちて詠う
ねくつとひし人もちりくにちりうせぬちき
に尾花少種金のめくりれしむらに志がし
ある秋のうら山とありしとるんがよいおのさ
はよつううもわらねしとね
そとれく二つの光はきい山やうらうらやのちのち
種金のうちよ二夜うらうなれ
まうらうほ金のうらね乃草花をいぢりけねのうら山
竹湯まうらううらね乃うらをえられいそこの飲地は
わらひれちうらうらうらうらうらうらうらうら
山村山や種よふ乃初尾をほや物く後ハ人費るにく
月前尾種金の内うらうらうら

春を北海やまぬの月乃為氷人うらぬ草花うらうら
正庸文うらうらうら乃ねまきうらぬゆありとも
郊のうらやねうらうらうらうらうらうら
ゆらきとまうらうらとも郊うらうらうらうらうらうら
いねうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
亥甲斐のうらうらうらうらうらうらうらうら
立本を源うらうらうらうらうらうらうらうら
月の初巻人うらうらうらうらうらうらうらうら
和はれあき郊の月も年うらうら人の云葉ふの花のえり
二日辰の時下の湯文よまうらうらうらうらうら
春の文ハ年北方にむうらうらうら作田の山社うら
なげあうらうらうらうらうらうらうらうらうら
お湯を八湖あうらうらうらうらうらうらうらうら

ひより右よそをくもる山つひとつるくこぬえく
りり河ぬいりりき繪師も筆をまつへりといふに
くーうーくともいふくひて山をこゆまは天杓林
とて衆の本教百株もする處しはいあすこの本
大とるく小とれくこく枝をさういふくは
をくこれとふり平地をうけてさひをむありて
さねうらまを纏をいけるさふしはい本をいささか
もそとよりこれと山神のさめありとて人く忠
れおの、より日七つ時よいかな小埴村立込何
許みまこのゆり何うかこひいさなまいあ
小埴乃湯社乃衆種ん事ちる大本はつく小も
何る魚うはまうてさへしとありたにりかては社
をぬしなうらまを樹をこくりたにりいさな

は本立おほいさうの常ならま
神さひよりい神本れ年うりい神祀ひく
一首奉納まきとまきり又神心まを
兼子世この神乃名れをのつらまのふもふれぬ森の本ふま
さういぬの月まむと出立は萩原定經まより
き此すそよりいぬもまふたれれ和音のれそすま
八月十四日のぬ本乃小竹淵り武勝茂経とこも
小埴捨山の月乃ぬま猿立乃りり

武勝

初めにあておの星ハ竹淵乃あふ淵をりける志のめれそ
似雲
け水乃河なま白き志のめり又あかたれのる星の一むら
出川松本乃星をよはれ思田乃茶店まをくけい金を

すぢはきく志ハ一やきくひ心ぶらうといふ村より
おしも^たたれ^た乃^はび^たふ^はゆ^とひ^く稲倉の^り人^はち^を
んと^しし^一時

武勝

乃^は所^をく^端分^かり^し一^一里^は名^乃り^ふう^一なる^うこ^ひつ^一地
稲倉の里を^らう^めやり^て

似^を

氏^は本^れそ^のも^今種^は出^く年^ゆう^{なる}稲^つの^里
新^や谷^系の^流が^所合^回の^里は^この^地流^はう^{なる}
藤^原に^無量^寺と^いふ^一禪^院の^うら^{なる}に^本立^え
こ^にお^うさ^り一^一走^樹乃^松阿^り礼^橋中^の流^法
橋^とい^ふ不^比比^りく^一走^柳乃^驛は^宿を^十五^日の^方
日^立く^一切^とび^一を^こる^り砂^系と^いふ^一不^和農^家

新^や谷^系の^流が^所合^回の^里は^この^地流^はう^{なる}

者^はめ^一稲^葉の^せの^紋る^りい^ゆり^やの^ニツ^ニツ^は
第^田下^井堀^をお^くを^こ乃^驛は^ちり^うけ^て是^を
や^まめ^猿う^る場^の流^はを^りむ^す右^のう^{なる}大^き
なる^地わ^りる^場を^らう^{なる}く^一火^打岩^とい^ふ岩^は
乃^は所^をく^端分^かり^し一^一里^は名^乃り^ふう^一なる^うこ^ひつ^一地
ら^{なる}う^{なる}い^ゆり^やの^ニツ^ニツ^は
え^きり^の山^うら^{なる}は^きく^一細^き乃^は比^のわ^りく^一姨^捨山
乃^は寺^には^名を^らう^め

本^尊二^さの^めを^らう^一一^一正^觀音^は長^一人^とり^一
善^導大^師の^作一^一是^は勢^至也^長上^一同^一慈^心
僧^の流^姨捨^山満^月殿^放光^院天^台宗^同因^一
分^は八^幡神^又寺^末也^一嘗^己午^向二^間口^間

茅婦き・外にけり屋敷をうしひききり・姨う石・大さ
交てよ・三丈のりともめん寺の庭より・木の下なるを
はぐらおりよ・ゆきののりい・岩ののりよ・梨なるむ
れた・筑摩川を魚とよ・鏡屋山の麓にききやか
うりし・の・祀れくともねく・はまに・時も・時・和もこ
ろ月も月・こりり・いりりていもむ云葉形

武勝

誘ひきて今宵此月・は・や・人・るくきや・す・けり・の星

返

文科や七宵の月にちくさきつるね・都のそも忘れく

奉紀二首

似重

忘れぬやきくても月の名は高麗をて控山の秋乃なるうそ

武勝

志しひきて姨控山よ・は・無月・は・秋のなるは・これにこそこれ

茂徳

ふるゆ・小姨控山・わ・う・う・月と・つ・も・を・う・う・う・う・ま・め

祐清

浮世も今宵乃月・ふ・あ・河をよ・た・く・ま・このねるをを控の

安道

くろりう・影ひも・た・れて・姨控乃月も・表や・え・よ・あ・る・う・舞

邦勉

伯母奔やこいひ乃月・恋まよ・このりりり・つ・ま・を・ね・く・姨

似雲

うれおふなくさめう・祈・福もねく・月さや・う・あ・る・を・よ・ま・その山

七宵はも・槐むけの・月も・つ・ま・よ・田・こ・に・う・つ・る・あ・の・月・つ・け

田毎乃月の・あ・瑞依の・詠・用・へ・う・た・た・れ・あ・の・月・詠と

詠事一

朽も玲び一乃写なれ

婦もささくさあつさ一那やうさく月のあつぬる此愛

武勝

日殺種て待こ一夜まれ月影をちてまて山さるをのさん
今さてもちくさあつさ一那やうさく月のあつぬる此愛

茂徳

今宵も今宵の月影はとひ一て詠わさむ姨捨のやほ

祐清

今宵も今宵の月影を照以月影を姨捨山はあつとるうさくこれ
英之

朽もさよ都の人と月をこて姨捨山はあつとるうさくこれ
筑摩川流りくる月の影をぬ氷をさよよ林の舟人

武勝僕

佐助

夕暮れ姨捨山やさく一那れ稲葉の舟は屋もる月影

月乃入る哉朽一にて

似雲

誰もなびさくさあつさ今宵のあをを捨山は入月をえて

放光院より打あつさく

胡戸のく姨捨山は入るさくさ月川中流りあつとるうさく

武勝

夜もさうら月影るうめて文級やちくほの川もさくむ曙

茂徳

志のめあつり月乃面影を志一そのこせをこすての山

是より外の人くれ詩歌詠諧るともあつさく侍一

おしあついとほあつさくこれこくこくさく

十六日己の時さうり小姨捨山をさくさく八幡へまきさく

武勝

千曲川をうねりて石清水をたぬきし
稻荷山・塩湯・篠根・南に布施す田
小原丹波清
いなり川を舟少くも吹上る
常智法者也

似雲

西の老人月とくま善光寺より
法堂より火

武勝

寺をいひこれおもはく
寺井此をこの月影

茂徳

くまの寺に誓ひハ三ツの玉にあや
法堂の燈

祐清

深谷のむきく書れ
此の花のうたなり

十七日の曉又湯堂より
つ、昭平の湯帳のあり
まち小目の前日未定川
徹して炎焼群集の人
看小念佛を宿坊の
きとれを魚れを
おーきて

武勝

法ともいふ衣志ほりつ
日夜雨乃降をれ

天智三子年草割寺領千石

湯堂南面奥行十九間
寺号四ツ河り
南命山
定額山
善光

寺不捨山淨土寺北空山雲上寺大勸進本願寺
共二日十八坊清僧三十名防妻帶指五坊
十八日未明よきのふれまのうささ忘れうし今一交
としてこもに坊やうてねま作りく者へより辰の村
をより又出く舞骨清慧安城まにゆけし飯糰
嶽の妻を姓あり乃まをうし子種乃花さうりされ
あふふしきばきくむやうあり

似雲

分きはる者なりときを猿衣あきれ花種れ也音取く小
戸深山然れれ松松のむるくお葉も色こ
松松乃さうり山葉枝のむもみちハ色小河られなり

祐清

分はる種辺より種の色入れらるそをうし林の山道

武勝

種邊半より種れ花乃分取くをむも小丘山の影ふそ

茂徳

交交う揚りて分る村時ぬ今一はの岩れりこちを
戸原し智泉城は宿し中流奥流へ糸りぬま
折しも打志くれつ乃河くありく夕園のぬ
しりくもく者通くるりくはぬまはひひ
こらまこれらりぬまそこくはる種より者坊より
むらひく燈火もときぬまは是よりちうらまをえと
ゆりゆし戸深山五十三坊社領千石

奥流 手力雄命
九頭龍権現

十二坊中流

思兼命
本地新迦

止四坊

比丘石ヨリ
奥女人
禁削

をもちこちもたうりうさくやもせられた心の分れとて
こそ阿婆とく。祐清心つきく。禁廉の家りりく。よ
祿をいさく。求めてもそのわりしを。口うちをきつるを。
かののやりよりしては。われうしものとも。又。出向ひ。せ
られた。たち中。ち。これ。又。ち。う。を。え。き。く。と。ま。じ。り。
谷とれく。家とれく。の。わり。う。り。を。ふ。さ。さ。う。て。守。ま。
を。う。き。木。の。下。及。中。し。て。著。ま。て。ま。守。れ。た。一
歩。さ。れ。も。ん。だ。に。先。う。ち。し。一。筋。程。を。ま。き。
娘のさうとく。し。き。れ。た。ま。ぬ。目。ふ。ハ。心。さ。く。お。れ。
あ。や。め。も。り。れ。う。し。し。その。時。我。り。し。ま。る。は。な。み。掛
の。し。く。く。ハ。それ。を。肩。ま。う。ち。う。け。く。あ。ゆ。て。よ。
さ。う。ハ。布。の。う。た。も。ア。ん。と。ぬ。し。し。さ。の。し。く。く。に。ま。せ。て。
そ。ま。け。め。あ。て。ま。下。り。し。し。こ。と。や。ハ。も。ま。れ。ハ。こ。も。又。及。を。

し。ま。し。し。く。度。く。答。す。う。ひ。落。か。んと。せ。し。
時。今。宵。ハ。伏。侍。ち。り。ま。れ。は。木。の。下。う。け。は。婦。れ。ち。
あ。月。の。光。を。き。し。り。ふ。う。り。て。ん。と。う。人。も。あ。り。さ。に。
あ。わ。く。た。び。山。中。し。に。夜。中。し。つ。つ。に。寝。ま。時。候。う。
つ。ま。う。事。ハ。ハ。し。皆。う。ち。ほ。れ。く。あ。や。う。さ。み。あ。り。
う。後。賢。者。の。杖。を。う。し。く。あ。り。ま。う。ふ。心。地。し。て。
お。不。つ。り。れ。き。わ。り。あ。り。さ。い。ん。ん。う。う。あ。し。な。く。
に。う。い。れ。み。う。そ。又。ち。れ。う。あ。の。し。ま。ま。き。や。う。形。く。
あ。常。と。て。ま。常。迅。速。一。息。截。断。し。た。樹。下。
石。上。の。此。う。し。て。世。の。あ。や。さ。き。ハ。う。の。こ。ハ。我。を。う。
い。し。あ。さ。し。し。う。ん。か。し。ん。ら。き。お。よ。お。り。ひ。く。し。
て。も。つ。乃。ほ。ち。う。さ。う。り。れ。い。ち。と。た。り。ひ。ま。て。く。
も。捨。て。て。さ。は。ハ。ま。こ。し。た。い。此。ち。う。り。を。ま。さ。る。に。極。

母湯師をく虎湯師をるけやくををひし
ありこころしやうもまじさうひしりこまてこと
たかいた蚊の多し師をまきさるることありまじ
折しも再れゆりふ念のりまねてやうて
わらふふちちしひるし正さうこころの夢
深少く四世俗に失うに恥海一悲むへし
わがふみくハ佛神乃湯ちうなうてはまのむ
きりの折しやうひまねれまきくふあうり
とわらは

観音乃尊号をころるはるハ深院の湯名は法後母
返うくころるつらうり折をねまらうま灯のえゆ
こころまちちうめとてたむえんとまねたみた
必魚くそはきさるなれしこころするやと又

美可に松乃とりやおほくそ二ツ木のるり
ふくもろえま本の下折りれをむうひのはおまら
らうしやまきうふつとて替のゆりうゆりこり
しうゆりこあく山彦のむきこのこしていらふ
ものえねしそ時よりきんくいらやうに氣つ
しういづれの乃おもあのととり火乃氣をいけて
ゆゆしと折りなれしやとよかふ深山迷谷う
くい大うむゆりね狐やうのもれ氣をうらひ灯を
懸しそそのむうふくゆりぬう久遠ハ淵河に
おししゆりこつれ外まやまちまきんもゆりとまき
つふまきまはえまの下葉折しきそ志ハヤを
らひつ折あつてゆゆしその布とにほこまのむひ
の人ちゆゆしこちうつむうふアと人くそ

つぎゆくことに集れしふ座をしに文城殿にいらし
ぬ本の下敷りも面にすまうりてねきくはくすりねまに
やどちちろきぬその時むらひの人りくいなに
ししむばうまねむむらひろりし谷の下よりこ
へり世時のうねりさあれさくる心城しとくね
くつと息をつきゆしうひておひひしとあま
えさちてくろりし人乃ちうらひみく者より里
人をこのむらひひはのふとをるとなんさては者
とも松の火ゆりそくくのしとほくさたうちて
まきり又まものをまふ夢ときこゆれとそれは何と
しむひ一時態といふもれ世よりたにおほくくは
よつふちり唯今もゆくさた又乃をまきりわらに
りおひしひしなりまつれとてまを流しゆき

うりぬれとやもすれしと記さるれとさこのあし記
ころりもてねも乃おほりあまさうあ合城うしち
こもろ母ありといふさあらしもあつた山流のあやさ
おを流しされあやりに佛名を夢のうねりまをひく
みこるつとそれをかまうりしなりさもねりたハ
目さにもあつぬ園流ちるもしと波をまききけ
ものうらひあましとあやちちあうあにきくねり
しと記しとまも神佛の御守りとまうつた記とまもそ
まねとあつまうつちも乃記りなうつねくまう
くにんつとませしとあやものまをさしと火り
さたへちていそき坊しとまもくくに出あひてたれ
く思怖しそれよりさたのしとまもくくえとた
まもちはけく流しとちり都あくちと記世山を遊

りせしははとつてあやうき様海をりしりひ
つゆきくばの時なりはは又登平の者よ是是よ
まゆさぬと増し後新田といふ所は祐清ゆつて
此ものありなれをこそまてゆつておと
ふともははのあま名なりお増川よあま
てつりすちうさまは一夜なるとゆふたん川
をりしるるなりと杖をこむこのあましと
さるに増鴻の人よ身ををらやものあまは
いりりておまほきさるものあまは
うなりはをりしれとさるさる山里めは
むし海ししものを志ありこれをおぬらと
あり海ししてまねくしとぬぬと
なうきぬの下りたるつれとぬぬと

ぬまうきねはうまねうさねさしてちうき
兼乃板るもやあまにまういんちうそはす
さひいばうりかく

山城こそともははぬ夕暮は谷のけちをらるあやうき
わく態もはにうつるおお後あけりり山とむま
亦日辰の刻は名は出く増川をりり祐清
えにりり増鴻の人志許ははは松本の城を巡
在りりいふも様難とらうりしと家つき
く山里めははぬぬとらうきよらうき
ひりり一木多庭の角りあまもつあさうに
志ねしていと真ありきのふ乃うきも忘れく
く折うりしひおもほえま夜もいり又よきり
又の日ゆりあんとせしにうりしとらうき

わふんくばしききくせちまうめまねとささう
心ほくもえいふともたそとこのあるし此
うらふ人表うらに中糸ねく空より夜うけ
くくさくのもさねありその中まひひり
とくくさくゆらぬあはれぬものなりあまひ
うらうら母さうりもろく口のもささやうに
て松茸もまも風味いといふ

廿二日辰刻とりに培湯を出く山谷を流飯田
沃液佐野坂をよき香木の湖水中継の湖水海
口の湖水とそ水海ニウあり山を長く長くゆ
く糸一記うらて眺を面白きこころあり是よ
り云海も整つてをすきて小松原まはれすたま
しうくこつ分り及のよきさひりおしもあ

うけ志めかといふくき初をさうり袖つてこけ
えれと涼き山の名や一の代は神龍山大沃寺
とくく福地あり世伝ますてくくりく若一王子
城おとけ境内親善堂外に三聖の塔をひり
香柳山天正法歸命山浮世寺一系り大所といふ
不う猿者年の比より秋もはうらる海をれし
人く鬃中兩といふこけ

仙雲

茂徳

武勝

海より一夜うら糸の筈まうらあうらむまは法に
海より堂に猿の表はけひぬくくねうらを整邊の村
打志布れ布とむらもねき猿衣日びうらるる秋の時に

武勝・姨捨山・月見の紀行をばりく。予も跋哉
ふその跋は曰

世に弄山へきとおほゆる中に月と花とにさくさく
舟しそれらにわたりてあふきさく月ふらそとそ月
為小照月ちりてはうらへ来て名も記月ばちり
此姨捨山よん侍りぬわらう月夜し。表しや
いと舞もときしひより。美吉の娘を一輪のちちに
のそと二十里の人のつも一輪の外ちりてされし
その夜れ云乃葉道のゆきこれ口よさひちり
きはめて一ツの巻杖ちりてる人三井武勝雅
たふしては受不和行園の世をこめくる云の葉
つあさうにかん
破山とちりて荒海とて記し盡る讚り

くろ海のそまのつとちりてわくをさるる沖はら波

右野山乃跡乃繪也

員より野や地はぬ様もあはきまの白糸ぬきこめ
新田河の跡葉乃捨り

以河中そくしきはりぬ立田姫をちりて水のね葉

加擁山王徳寺者し侍り

谷のね葉れ雲風ちつれあ杯さめやに一葉秋の山寺

忘忘或人の許めく探題当座

今も孝くも所とそにもたしひ出せめくも生れ中といの

社頭松 松本天後文奉納社人邦勉勸進

神植や一夜の雲に云の葉れちりてし子世はうさく
文級りてさるし比月ししはたしひて、長月

十二夜よ

一ヶ月も今宵の月ふたりして面影ゆるぬ文級の里

曰夜

笑も柔らかなる白おれをうりにまじく長月のうけ

十四日百瀬念佛堂みく人く奇くまじり

聖寺とく不眠くく当座

笑をを娘の形をすまのむとやもれもやまき子権百柱

十九日海辺五庭祐清亭くく当座

娘頼里れ標之孝長をひく妻をふれ冠波江のち頼
子世うけく帯ぬ松も一は乃ちにうまある妻のうけ

娘宿又虫の寝をきくく当座

写世一れ寝もうれのち草枕柔哉つくとをををうりくハ

紅梅をうけくく繪の上り

うつ一寝よれ色もぬれくくぬるわふくくやふ小梅くえ

佐州百瀬村念佛堂乃りくく形る林のち陰小

箱清あしとちんりふ清あ乃りくくぬく人々に

こりくくく

をぬきハ海すくく箱清あこひ何とん所をよふに

古き衣をのりくくはくはく

お柔よれ一衣はるくも志れをく舞う娘の正う

廿七日竹園百瀬城出る時人く名抄を打く

志はるく甘ふも三つくくをを神代ひえて又

おはるくりあき大うくく世れあま

ゆしと志をあるまはれををくまけく

き打く子記く海くくはくふちと

時のるもくうりく世よ

三ちハさふくうりくをれをれ又つけくも

の魚うへに上りて南無とちりぬくもれちり
こころのききく。詠をきくもやうに。孫かうもけ
阿つり八月日。子孫く久しきく。侍り字れ
をのつうちちありく。都立し。此此あし
う。ぢれし。よりも。ちちく。長ふ。をりた
ともうらまさまく。空いろも。しせに。あれと。ひとひ
ふつう。三日四日。おししく。に。あきぬ。饑おれ。おも
お介く。と。これと。筆。い。海。船。し。い。る。う。う。と。あ。志
う。し。こ。八。都。は。は。り。く。こ。ろ。さ。う。一。清。う。う。す。な。む。
本為此何邊の紅葉城こく

本為川やえもかきこめし。あまうらあき。白波きし。のち
掛し。みちを

あきふもやうき。なは忘れし。と。う。く。し。め。本為の。け。は

そそく。そ。う。ん。り。外。八。波。の。う。に。何。を。さ。り。れ。本。為。の。村
紅葉ちる比八端をけし。や。し。む。え。た。け。し。本。為。の。山。屋
昨日の秋。麻の。髪。け。き。く。

旅衣本為山ふく。ま。く。ま。秋。も。名。残。れ。ま。し。の。髪
神。每。月。二。日。福。清。ま。あ。

本為。新。福。清。の。里。ハ。名。も。あ。ふ。不。う。う。小。や。安。頼。家。か
む。お。本。う。り。な。ま。る。そ。う。ま。は。め。る。新。井。何。う。し。書
あ。る。人。は。世。の。こ。ろ。ハ。ほ。乃。世。れ。り。つ。し。り。せ。れ。ま。書
志。け。き。世。乃。心。と。ま。これ。を。く。あ。も。朝。れ。夕。れ。湯
佛。日。香。花。城。の。向。經。あ。に。念。佛。三。ろ。入。つ。年。ふ
ま。し。も。ま。し。に。あ。ゆ。む。と。れ。く。大。宗。妙。典。あ。と。書
写。阿。多。し。と。そ。う。は。ひ。も。み。と。あ。り。う。く。ま。と。操
乃。神。城。志。布。り。ま。り。ぬ。世。人。志。め。し。の。君。詠。一。ま。と。

正夕き月さゆとるけくしよめるほろくおも黒白乃
二麓の命根をぬるのをいづきとふいゆりく
いふとも態をよにさるゆちおも玉の法をうり扇をうりハ
養徳話の者少く。西史にひびくも秘言れと
いふ事ハ遊とも出むこのやとをぬるこれちれ猿をいひく
古二日虎溪山よりまゝして

不うらうらもま無とと溪ふと本のも吹ゆ風のけちりさ
と流うのえやもよん世寺れ池の中流湫津安ふと
嘉月二日ふんこれ律院しとく。僧改取船月と久懸
しとくともいふゆいふ
住寺れ境の初とも妙を教れ月少と之の志れうと波
智業法師れ弟房ア
山よりと房とけうすす好めよさうりれ心もまるとめれ社

寒、草

うらりあきさち世れ寺めも表柱と白ひらつと二庭の白きく
六日。義弁律師より。さうすさるれ。法西の。函
指乃もさぬをき。指ひく。やま。嵐の山を庭
まふくさる形れおくの葉のわりらと。思ふ
と。うれ花もね葉も。房ちう。阿く。れ山乃。春秋の。流
本為河を舟しうとく。り。時
き。わ。る。本。為。流。乃。橋。は。さ。も。け。て。舟。流。や。う。き。漸。の。思。ふ。
十日。素。名。の。水。谷。光。周。津。少。く。尚。産。里。時。夏
志。れ。流。う。と。山。里。は。う。院。と。ま。さ。る。ひ。く。り。さ。れ。も。あ。れ。と
十一日。多。度。乃。湯。社。よ。ま。つ。る。舟。中。み。く
海。小。も。多。ハ。あ。く。ま。れ。う。う。ま。れ。つ。ま。う。う。う。う。舟
或人みはらんととてうれ

勢別らるる方とつふ事なまめる人世のうたのりるもの

うらりまうーはきこく

まはらうとくかれときー^{世運}とくきめありてふ世の波風ふ

十五日辰のまににば者成をく日午れ末つう四日帝

みつき三日四日これ星よまうり事終比つとおひひ出

事松下とり隠者れと成とひまれとそれい此

まうりぬ又使うりくいおも幸あすく一毎くてまぬと

りりこもそもまこーやまうれーほあこりりも

者つれろーく母さもありぬーとて神成をあり

はくい人とハ成うらひひこせーとありこりく

きをせ中ーいハををりいにー以乃妻伊勢

まうてまんととひききちて江州土山乃山流をあり

つこー流より我はわりの人あり之りこまはよ

とひの比いきちとりの僧ろり世人おむつきーう

おれハつろくよりい法ちへけ御せまを流ふそ及の坊

てよこもようこーひPへーとあり多れと我は天

神宮へあ流さーあゆむ成とひ侍るこそこまハ又

つ川まおちらるることとひハれた拙僧をつこく

山水好むくせありくまも定めとこその様

より活外よあつうねる不ありこりこふさふらひ

あれと妻母ありもてゆく海にいつとら記字の川

やうめくまうりに隆奥の培う後松流その外名

あはこころくをそつこも後河を侍れとをそ

むきれむととひこちぬ勢別四日帝の事には法

乃師れとまはまらまうこく之使うりこりこめく

おれのおちまれあろーらひはおひなとをた

め。ひく。く。装の。ま。う。ひ。て。あ。る。魚。と。あ。り。時。々。
こ。う。し。う。あ。る。こ。回。氣。お。求。え。て。り。ふ。安。ま。あ。り。り。
ま。も。烟。産。乃。痼。疾。り。り。く。死。せ。る。と。ハ。や。む。魚。う。う。
ま。ま。一。久。く。そ。の。れ。ま。こ。あ。り。な。う。く。ゆ。れ。と。
う。ち。ま。ま。ぬ。成。交。と。も。ぬ。ひ。ゆ。う。ま。ほ。く。ハ。ま。れ。と。
さ。り。う。う。ま。ま。こ。の。あ。り。て。あ。の。ま。ま。う。ま。ま。に。う。う。や。ま。し。や。
と。も。ろ。く。て。の。や。う。ふ。き。こ。ゆ。れ。と。さ。お。は。あ。ら。た。ま。て。え。
れ。と。そ。の。ま。肩。ま。う。け。ゆ。ひ。一。は。ま。お。は。あ。や。一。
お。も。の。あ。り。何。あ。く。さ。う。ぬ。う。う。ハ。お。れ。ハ。お。あ。く。
さ。う。ぬ。を。こ。の。ま。ま。こ。一。お。さ。せ。る。お。ハ。何。あ。く。さ。う。
ら。ぬ。と。あ。り。一。ハ。お。れ。も。お。め。て。さ。う。ぬ。と。こ。も。く。
ま。り。ひ。つ。ゆ。き。う。く。ま。ま。こ。れ。板。の。下。お。る。茶。店。お。く。
お。ま。や。あ。く。め。て。お。る。や。ま。ま。と。せ。ん。と。う。う。ち。ぬ。き。そ。う。に。

き。ー。も。の。と。お。ー。に。さ。せ。ー。お。を。を。の。く。お。ま。の。お。れ。
ハ。ま。ぬ。く。さ。う。ハ。お。い。く。ぬ。う。ひ。乃。も。れ。く。お。い。く。
一。て。お。ろ。く。く。せ。ん。や。い。は。ら。う。や。ら。お。る。もの。と。
母。何。の。ゆ。う。や。と。う。う。く。お。て。め。く。を。一。つ。て。笑。ふ。も。
の。も。あ。り。ま。時。ま。ら。う。ぬ。く。乃。ま。の。板。に。お。る。魚。一。
こ。ろ。く。こ。り。や。ハ。と。お。ま。う。ひ。ま。り。ひ。魚。一。て。さ。う。ハ。お。と。
さ。お。れ。一。お。一。度。お。出。た。魚。一。と。お。ま。う。ひ。ハ。袋。一。り。
と。お。く。ま。れ。て。肩。ま。ち。一。お。ハ。大。き。れ。お。よ。く。べ。
あ。ー。ま。ま。し。お。ハ。横。笛。う。う。く。お。ま。れ。て。お。い。
も。う。け。ぬ。物。ち。り。あ。り。と。そ。と。も。に。お。い。ひ。あ。り。我。を。
装。り。お。も。是。を。ま。ま。く。ま。ま。と。お。ぬ。く。魚。の。中。一。り。茶。
具。お。い。り。お。一。版。お。て。お。い。さ。れ。お。る。こ。の。お。と。
こ。う。り。も。あ。く。さ。り。お。ま。と。お。い。さ。る。お。あ。つ。き。お。や。お。あ。

らまはるやめうとすまあらうにしてをのつうやさ
くおともれくし終しやア魚さるむさそるこれ
苗はうみとありし時今の紅葉のりされ長きれ
しといふ美かしくももいゆきつとそとくれと
殿樂五常樂やこれ相あにツニツとつりきし
形しひいふさく人乃きうぬ涼山迷谷樹下石上ふ
く吹さささひわり心をやしるふのいふ夜の猿り
又日本は程記とすおありおありつやと云は
ひささうはわたりよしあみさうり別の鏡しそさ
はつらと魚しといははほいさうめねくは世むく
をりは深奥乃とうろくを先うちとくんめり
つ。海をまきうてきくくかきうりや魚しと
五しうのふいさけくわしうやわうや

之はうれは深奥へをもむくもく。こらうくもく。福又。
つ比うこれひく。世な。せんけり。とそ。うく
きけた。何のりも後形りりりし。後の世よ。おとろく
も。是もすし。後形りりりり
廿三日三上山城ふく

物田橋をとりくる。とく

海山乃らうくうにうけくうんぬひもろこの物田の長は
日兼石山例の寺に居る廿四日の夜あふ。廿五日之
のさう。より此院を出く。あうの松さう。廿。松本をま
き。大津めく。年の車をまき。河をえん。はらひ。木れ
あくるあくる。赤く。たれ。あ。ともき。をまき。
ついで。あ。き。ち。き。ける。あ。あ。あ。に。思。ひ。う。

小車れわう身にめぐる罪こころにやたりしちねくりらん
是をえらうにつけくも因果のちるごとくしれ車のめ
ぐるよりもまきやうちり誰うこれ城おろきこころむお
をねへしはくしむへし

山科十禪寺丑二夜うろ杯し亦七日深草のまき
昨日富田十二月四日しは江よりぬよりあまき
難波よりくも舟中いとむむし五日こころし
きつれ六日天王寺一心寺すして七日又富田へ
久野十二日清水利恒とこもちい神峯山まのふ
る大門寺まきあふくこころあまきこころし
城むまきしとむしあふくこころしそのつよまきこころし
ぬこの下ふる山家し煙の立城んく
山月煙とるりとこころしつらねくこころし山あふい
海

早米著

さのとき上人の折し七著せり年をを笑去やうう世
ゆめはすくこころし移人移衣あう久野とこころしあまき

享保十七壬子早米旦

目より此指反をねもをねくしは乃山を去りあまき
谷乃むくしねる山城まきし山と里人乃の山城す
あまきねをけしあまきは娘のまきし山まきあまき
五日山家まきあまき

勝屋

ありを記しこころしあまきあまきあまきあまき
るこころしあまきあまきあまきあまきあまき

折しもたしひほくきり

拂ひてもつはりの地りむらさきつらうせぬ——自雲の海濱佛

自答

ふれぬういれちりハほりるともさねうら控ぬ海濱の抄をい

夕雲

なういふ妻の日記もこれ折乃福々にたふる雪これいふ

松庵梅

あつちやの梅やのあつちりに白いきぬ釣簾のすちうん梅の厨

春雪

ふるさう地もなうらうききて海ぬれさよちりういふ妻れあし音

奉寄似雲上人

長福屠龍

三衣一鉢水雲身萬里遠遊還此臻吟賞

東關名勝景知君佳句有驚人

和前韻

いづくに此はさあれをいれくは赤さくあはまうし旅人

十三日淀河の舟中ゆく君れうりあれし

舟又あしまさうやんる福もるまらにきある春の決り

十四日并河氏の旅者少く孤舟蓑笠公孫獨釣

寒江名

旅者に入江のきんはなれくううし一葉をいふまの釣舟

今朝有酒先可醉明日憂来明日憂

めういりしむけきふらるる舟なりともうらういふ世花の盃

右二首句題人のれきこまうりいふはり

梅はつんく

難波はの世ういれ妻もをううてあふれううにいふあ梅うえ

梅風

吹竹は多岐しうゆを咲梅乃をいふやしも清ひはらん
守口しつふ不の茶亭よ居のはたさうはいつく
らにまことしをさうく床の下よかひを身な
たは是をえんく友とまらへ床の下れ去れ居といふ
題歌しうく一首と寄つれとまらへ時より何を
改訂すこころ此玉城にふたしひ少くや居のつむむ
十七日の夜はの玉田の里に止める清あゆみ
れ志つしひをいれし梶景亭母屋よりゆり
しそのまきもえんようまきりりく月いと
たし海より字禮を
まこのゆる秋をいひしその月去のりのとて新世長栄さ
新れうれとてし去れよの月也きゆるそのうれを
梅井ゆく

花さうりぬ面影もくそ志すまきく去らつとき梅井の里
神とまの東城
まもましく人やりうくとゆりきてうと勝を新世神とまの表
古溪禪師よりいひしうとまきくすはすりし由やた
しまきくうれりよの掃人とまきく返し
猿衣立ちうりてもるしををいひてうとまきくむねうとま
神意まより眺をいひて
り舟のほのふみつく候しうとまきくりしを去のつと
大衆々々無雅な帯に山水城めはるんさし後
らされしれ陰奥へをりむえとせしはうれをお
しそ波西くれ名うとたふくをえめうとまきくや
くむりてようとまきく相うりまきくしは是な
世つれまのしをけを勝の末の去すうとにせん

去つのをきく候きり返しつゝこもに繋り牽一みと
し比のやすひをもちふちりもてゆきくはわふこそ
此隻所使りぬしう。今ハせん正なるこれらつをういそ
のうらちもきれしむれよむきてうらちうらちをういせ
くわねとらあきこよとほきさひてむねく盡あま
ひるなるのこ

半もろり候をこゆる末乃雲主人と繋りし人ハちき世
なもねとつてせしういもなく誰まうこ人ねうら流
ゆきてまう今やう人ニち記法のちち此花の巻り
二月五日石山寺よまもりし時君れ少りなれし
かまし本も岩も花の咲りり石山寺に君れまもり
又難波しうらうし
さしてそのなるものともしうし何分をふささる世の
中

日一不ぬまある人乃許をこひ侍し比常れな記たれハ
難波津や今をまよとせうして梅咲一宿よきわゆる常
枝弱不勝雪

何しえらわれとて文はまき、雲よ發ある君れ下り
休生十六日石山法橋院の庭に梅咲にて
春六程つちうたふる花は風志川に移らたられやまも
日一山雲岩のたまはう梅の一木咲あるをこく
あしくも花咲まりり石山や岩もま雲れ種をうりこわハ
鳥のゆりある人乃許りごき世のしねとせうそ
うしてはくきこせとらりをれたそのうれ返りこま
玉の法乃絶中一後と所を志れしうたうたうき病も那
世にせすつうこちめめ五十回忌のはわあう
いまるすちうらうしめ茶をいとちうりたておくい

予一おうきつとつうねくせんまねく。頭施袋と臂
をまぶく。とらりゆと流し一五。五位驛鳥一ツ能とん
へはく。笠城をうて待たは。毎代まらまら
く。しね城やまらり。心でくをて。若くは
是さうね。さめておひ。あてするに。是ちん。流さじ
な。し。世。されし。を流う。か。ふ。ん。せ。是。も。ゆ。り。え。く。じ。
秘妙智力をう。う。せ。流。と。う。ら。う。う。あ。れ。志。一。観。念
一。ま。れ。と。一。句。の。結。着。う。う。う。う。感。得。と。五。人。立。路
鳥。立。行。ば。く。く。や。か。う。之。ぬ。ま。は。五。位。驛。と。い。ふ。文
字。又。笠。と。い。ふ。字。を。さ。う。一。使。少。て。笠。篇。つ。く。り。く。う。ふ
り。を。ら。う。ち。え。れ。と。字。の。顛。倒。す。て。波。一。句。ま。あ。う。ふ
ゆ。ね。し。一。れ。城。と。あ。て。は。つ。つ。し。必。き。て。え。く。く。山。乃。あ。
位。岳。川。の。る。う。ま。墓。の。る。う。あ。ま。す。の。あ。く。り。又。え。れ。於

う。こ。う。一。世。時。お。そ。ら。一。く。も。あ。う。く。く。も。あ。れ。毛。ひ。く。
地。く。く。流。さ。せ。く。涙。さ。あ。う。く。一。ま。て。弘。河。寺。に。流
く。ち。れ。僧。流。不。の。もの。を。と。お。う。く。一。ひ。あ。る。い。ま。え。と。
て。ま。ら。本。堂。薬。師。如。來。び。お。一。を。れ。り。こ。う。う。こ。
の。も。か。の。も。を。あ。め。お。ま。と。も。堀。と。一。も。と。ら。と。い。う。は。せん
と。あ。ふ。お。一。ま。弘。法。大。師。の。流。義。堂。あり。入。く。字。像
を。お。ま。ま。て。ま。し。り。る。小。字。を。あ。又。佛。供。た。て。う。一。て。西。行
上人。乃。流。神。と。ま。を。り。是。ハ。心。う。あ。る。ゆ。を。と。こ。ひ。れ。
か。ん。り。こ。う。り。上。人。へ。あ。う。し。あ。り。一。料。め。く。け。り。り。さ
る。ね。く。あ。る。ち。り。と。う。く。お。も。う。り。あ。ま。り。あ。ま。り。は。き。け。り。り。
十六日。上人。乃。流。正。念。日。又。う。ま。す。う。て。あ。く。く。う。う。あ
は。し。に。あ。る。あ。り。し。その。世。乃。あ。る。と。ゆ。く。と。ひ。う。へ。ト
ね。り。あ。あ。せ。く。ぬ。う。つ。き。ね。う。く。後。流。あ。ん。と。を。と。心。の

ろにませたとめやうくはさうりくく人くみひひる
我こにやうてきこるこわりのあのとちうした西の上人
の流りをさうりかひしに弘河寺に去りて骸ををき
めまのせし不ちりさるまは祈り志持人なりしと
ちりるうきくはくいと浅きしをほいさきりうか
とどひりくひて石山寺にまうてうちゆくも念波
觀音力をうごうひおく一公の寺の之尊号はらるる
しこかつし祈りなりしに大慈の法するしと衣
とやんそちかひし流ひきん何れも形も湯告げうり
たに系りぬされはゆめくも曇り似る相りたるは
しひ出さかへしそのお終りくくまうしときま
へられとも及る魚きし人くうくは寺のふと
りみおひいもさうすし炭度もくさうひいひ

つととやとよこれい事小あはた 觀音菩薩の
具強し由さくたろ福くく五尺さ流を去つてと
しひしうふ時又年十五六ちりなる文教といふ
僧い上り河塚といふ名のゆり経塚をいひあやま
りしとるむりふこれしう西の上人乃古つたれら
まひあやまきるまはらした西の塚といふ魚を上
眺しあはの塚といひしものちりときまはるしと
神はぬししなれを皆人くも打去をれまたりさは
河塚といふ魚しとくは堂しりもくこれに我は
ししうく人乃教もは名りあつて五人踏りあて
まこれり盡そ符合せんといとうまうくし
人くくむいし塚の上み竹のやとこひりた
はれはあさりみ竹一かともさうしとにの塚

乃之其かしくとつひくゆくばし一我
こらばとる地くをく一なれくも大悲の法を
へぬると佛り乃くうくぬへきれゆきくえぬ
まににる魚一其行より高ありくぬ成る人
を時いよく西の塚のくくひかてるきんものをと
いふをゆくとれくくくくくくおりおたりとち
多く我教坊つくくとえたりぬそれより山乃くふ
あやこの不まそとれと着中よりきくふとれを古塚う
つたうく一て前まいに一(五)一西の上人乃送像
堂此認とたほしくく教百年法経一や苦む
甘ふ不は勝のと残りく長法うたひさくこれえ
とて誘ひく塚頭をえんかくは小竹さうく生
むり是をう秘くいひ一ぬぬらととゆひさ

と一へなれて若のしく高鳴まく虚空よりこ
さりくせにけりこればく我をいふもさうちり
おんせしうもうくを地まなけうちて保まむ
せうりく人梨奴

易そ社又法のうかふる弘河寺のころつら
しよとて悔まきに寺にぬ地より書をきけり
かしきうのやう納まうせ古墳感得記
みまれいこうりくつとへは弘河乃をことも
れる人形く羨幸波をうみ孫う古塚の苦の下
うも西の上人乃秀徳を朽きしてかくれ末の
世なりくかか奇瑞のおりゆき一大悲の法
利益阿ふさきと悔つまは石山乃やましうとに
く弘誓の原如海くくくくくくくくくく何

七矣形く人

爲のうまや弘きあひのたとりくはるふまにいのりてをし。
一尊三十三所の法数よりちりてへく一軸三十三卷
乃佛經を筆のほくを記をもて伝らるをうたぐ
さしをめて傳つることきちりてハおそれを記し
と阿らされと婦して祢らりてハ
大慈大悲の法より法をりてせ給ひて此寸志は多
にうまやせ多美也

享保十七壬子年派生

江州石山寺法輪院より書写

釋似雲

禮拜

此交い古墳丁印の石は多てとるよてそ人みかりりて

世を授く若むむととも人乃名乃く地ぬあさしや石よりせん

石はよのつらあるまされ石の表よりハ

園位上人之墓うらつらうらふ西乃法師のりあると
うれましうらふれしうらぬま蒙のこもつらもあまこ
とやせうらうらうらぬらるるそのわしうらうらぬら
二三人阿やんたりと三人うらうらとせられしはるうらうらと
とともあつたあうらうらうらうらうらとあてし人ハば
のくに難波よとあれ樋口ゆりしなりはんさりしハ
讃州へくうらうらうらまにそのわし西乃上人の舊而
記よて一本乃書阿らうらば松ハ甘うらうら上人安んすし
ゆひく

をさし授く我後の世をさし松記志しふ属記人も形記志を
とるし松と形人今あまうらうら人すれ形記志し

乃正清おほくわねくまを凡世は石をえりてくもてを
うばわしことしてものくりにるされきぬふく上人
乃徳行とて経てるくくくくくくくくくくくくくく
れたこの弘河の古墳のこはきくくくくくくくく
たをぬしひ福うひつて石はくくくくくくくくく
是うれたひぬはまればかりをあの事うくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ちき筆はくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
つくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
のこわり

おをちさうりのうくくくく

くくくくくくくくくくくく

去ばくくくくくく

是をよんてとて人れはせくこれくこれかまつま
とも人是をうらむるを記りのまことに佳山
水風花雪月造物者れ無盡藏めれうこれか
りて阿そとさじんす禮を享保十年阿そり又
つしつるをのしりめつしと嬉立く新玉乃去
のわけ本の富士の原者びちりめ名に阿そ秋
の半天又伯母弁山の月びつるをうりく又の去
派生の末よりうりうりぬるうりに是をおひ公去
の曙を吾は娘の夜乃月の上よりめをむしうりく
娘の取れ月を春の曙れ君の下よりそんしとか
くろんるを多いはれり伊津連ちりし舞とてろ
城志つりくほくくとい日とてるにらほぬき秋のち
この月を光しとんり、あめ初去乃曙の色と

相ちうしてうり入ぬくふはれゆ、姨捨山と物
のまう派びつるむ時をこの高わ城まらわりや
中魚一世ぬり者よりあしむ定の取本のと
しみしすとのあまほのを道の坊まよりまきまき
ひつる云草れ名をととまのこちりて六十餘國乃
ちうしぬる訓る地地のしほう返返うぬ浪奥
乃しりくすまぬやし月びりりりきりきり
去海や行し戸とのをりひくやまね舞ましか
ひちんやう丹しととく色とまきりて八波原
藤屑をう記のこさむしりハ毎い何すんも今
かりり形ハけぬるめハうれはら良舞下うと

似雲法師・流流の朽く嵐山乃林原大井川の不
とつまといとき、やの移る、葉れいほりをむむとひさゆ
所よりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
みち月者よつたせやほしををてあろうひ
塵よりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
八年毎ちう魚るあくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
成見はほくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
三流よ志れる人の家侍色ハをこくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
侍りうれ志れる人の家又積わくくくくくくくくくくくくく
くれぬあくれと享保十あすりむつこのくくくくくくくく
明ゆくそくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

又ぬらひちるきなうめりひしらす。妻よあふふ
れ思ひ出を婦一のぬや雪よりあふむ定の
わけ不のし類一ぬぬりぬとそそれよりみ坪の
くみくより。松浦よりぬ是ち人きししよ
り八段下れり。ちうめより日びおさぬまことひいてん
云乃系もれくく立陣りすもきそらんやん
ちよきおとく出ぬ。日月の比を。伝法流路よりり。
うて初一ころ名と云路をさう初一よとや録のな
あふなりぬ。東級姨捨山乃月比ちうめ。本や佐く
ぬ所射山。祭本とおうきて。何くれと稽より教諭
て。ほくの妻。邪はゆりぬ。あうねる日。吊る家
よきしりく。うれ。及さうれと。も。城はと。ぬと
て。おうり。一。ゆる。又。道。く。志。ね。ち。る。お。や。付

らんとをめり。禮し。窓乃。曙と。名。あ。る。一。す。れ。を。神
し。を。出。ぬ。あ。う。ふ。お。う。け。し。い。と。お。う。し。き。こ。と
の。こ。う。く。け。く。う。し。ん。地。一。付。る。これ。を。世
おして。ち。し。や。又。後。ま。む。人。の。あ。さ。ち。り。孝。忠。以
う。し。い。る。ま。て。火。よ。ち。世。と。り。上。行。く。て。せ。ち
み。こ。ひ。え。ゆ。吊。る。は。し。お。き。筆。を。色。久。付。る。お
ち。し。し。

合世系光禄大夫実積

